

福島安正 安正 陸軍軍人、漢詩人。嘉永五年九月十八日信濃國生乳。大正八年二月十八日歿（六五—一九一九）。幼名金重太郎、運治。明治一
 年上京、開成學校、山東省紙の北門社に學ぶ。六年司法省出仕、翌年
 陸軍省に轉じ、十年の西南役には山縣有朋幕下總務府書記を務めた。
 その後朝鮮、支那、インドに派遣せられ、情報収集に當る。二十年駐
 ドイツ公使館附武官となり、二十四年の歸國命令に際し、翌年から一
 年餘をかけ單騎シベリヤを横断して歸朝。三十九年男爵、四十二年參
 謀次長、四十五年關東都督、大正三二年陸軍大將。

著書に、『自適集』、『平仄編』、『聲韻珠』（紹古英譯校訂、明治二十五年九月十二日
 博文館）、『馬上講演剛健と修養』（村上貞一編、大正八年六月十日忠誠
 堂）、『福島大將講演剛健主義』（綿貫仁門編、大正八年六月二十一日帝
 國在郷軍人会本部藏版、小林川流堂）、『大陸征旅詩集』（關根沐菴
 譯・太田阿山編、昭和十四年九月五日東京協會、再刊・十月二十日衆
 文社）、『福島中佐の單騎遠征』（内題・西村大囚筆録『單騎遠征録』
 略述、滿鐵・弘報課編、康徳七年七月十五日奉天・滿洲日日新聞社

「大陸開拓精神叢書」）、『福島將軍遺蹟』（太田阿山編、昭和十六
 年六月五日東京協會）等。關係文獻に、

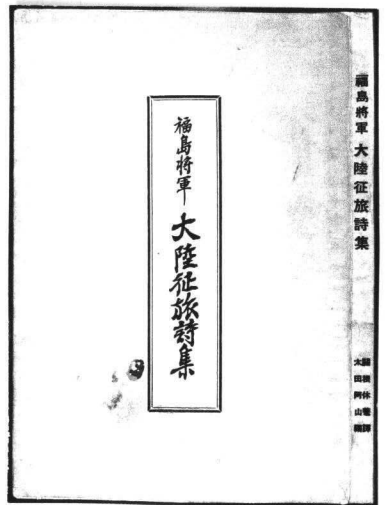
尙武道人輯著『福島少佐單騎旅行』（明治
 二十六年一月）二十八年大阪・正英堂）、
 山本鶴嶺編『福島中佐遠征紀要』（明



治二十六年四月）

（岡島書店）、村

松恒一郎編『福島中佐之傳—附遠征紀行』（明治



福島將軍 大陸征旅詩集

（二十六年五月十一日青木嵩山堂）、野際馨著『福島中法探検遺歌』附
歡迎軍哥』（増補二版・明治二十六年五月十七日大阪・中村鍾美堂）、
落合清文（秋の家主人）作『騎馬旅行』（明治二十六年六月二十九日
國語館博覧會所）、島貫重郎著『福島安正とシブリヤ横断』全一冊（昭和
五十四年十一月二十五日原書房）等。